

かごしまけんやまのくちいせきしゅつどひん
鹿児島県山ノ口遺跡出土品 一括

【種 別】重要文化財（考古資料）

【所 有 者】鹿児島県（鹿児島県歴史・美術センター黎明館，県立埋蔵文化財センター保管）

鹿児島県鹿児島市鴨池新町 10－1

【時 代】弥生時代

山ノ口遺跡は，鹿児島湾に面した砂丘上に所在する環状配石遺構を中心とした遺跡で，黎明期の鹿児島県考古学界を牽引した河口貞徳（かわぐちさだのり）が主体となり昭和 33～36 年に発掘調査された。9 基が確認された環状配石遺構は，海岸線に沿って幅 20m，長さ 60m の範囲に軽石を円形に並べたもので，周囲から焚火跡や立石も確認されている。

本件はこの環状配石遺構からの出土品で，岩偶や陰石（容器），家形，勾玉などの軽石製品および磨製石鏃，焼成後に穿孔された土器類が特徴的である。これらは，南九州地方の弥生時代における，祭祀遺物の組み合わせとその独特な精神世界をよく示す。

さらに土器類は，南九州一円に分布する弥生時代中期後半の山ノ口式土器の標式資料であり，その多くに開聞岳由来の火山灰・暗紫ゴラが付着することから，広域的な年代の指標としても重要である。



（写真提供：鹿児島県立埋蔵文化財センター）